

協力と創造の 新契約システム

経済・社会の大きな変化のもとで、新たな活路を創造するための様々な協力が求められる。この史実もないれを、その契約という面から見直してみよう。

■わがまちの美、創る
小布施、綾町、ローゼンター市、等々に学び、まちの美がまちに人を寄せつけてやまない、と云うことは判った。確かにそうだ。では創ろう。わがまちの美を。

■といっても
といても、その種がそう簡単には見つからない。地方のまた地方のわ

第18回

「物の美」なければ「人の美」で

市民が動き出し 行政が支援する

「物の美」が見つからないてもいい」との返事がくても、「人の美」といけるひそかな自信の一つ
県内A市にはオーケストラもあるしパートベ
トラもあるしパートベ
の第九交響曲の合唱を
うたう合唱団もある。ど
いうより、あるようにな
った。二十年前に無から
有を創ることに挑戦した
のだ。その以前は「文化
果つるまち」などと自嘲
していたのが今では「又
化あるまち」を自負する
ものもいる。今、地元出
身の若者が東京に出て彼
女をつかまえ、わがまち
にある。

「誰がどうやって創る
か」ところで、こうしたわ
がまちの美を、誰がどう
やって発掘し創るのか。
業者か、行政か。
ビジネスではごく近い
うちに利益があがるので
なければ出来ない。当然
である。また業者の売
トラスを結成するしかない
し、また、市民による合
唱団に期待するより手が
得られまい。
そうなる、市民自身
の中からバイオリンやチ
エロからフルートに至る
まであらゆる楽器の演奏
を楽しむ有志を見つけあ
ってアマチュアオーケス
トラスを結成するしかない
し、また、市民による合
唱団に期待するより手が
得られまい。

を語る。「僕の故郷には
オーケストラがある。一
緒に帰ろう」と。「そう
いうまちならお嫁にいっ
た批判しているだけでは
何も始まらない。中身を
創る努力が肝心なのだ。
箱を生かすも殺すも市民
い過程を案じむ

ここから自ずからシス
テムの原理が浮かび上が
っている。
少なくとも近い将来の
収益性など見込まれない
事業に市民自身が寄り集
まってエネルギーをつぎ
込み、成功し始めたなら行
政が支援に加わる、とい
うのであるから、とても
従来型の上命下服システ
ムでは治まらない。互い
の自発性を頼りあう横型
協力システムとなる。い
わば地域文化興しのメセ
ナ連合だ。同時にことが
美の文化を創り出すとい
うものであるからには、
優れた芸術家が参謀に迎
え入れられることも不可
欠である。
そしてA市の場合、酒
造処だとか地場産業に関
連する事業の経営者等
々、合唱も歌わず楽器も
演奏しない各界の市民有
志も協力しあって底さき
えた。まち作りであれ
ばこそであった。そして
見逃せないのは、そつい
う役を買ってでた者もそ
の過程を楽しんできたこ
とだ。大勢が得意の楽器
を手に最初に集まった
日、皆々思い思いに第九
の出だしの旋律を試して
きていたのだらう。いき
なりソウレ！とばかり
りにさわりを一緒に弾い
たとたん、ハーモニイ豊
かな音が出た。聴いた瞬
間、これはできる！と
思わず顔を見あつた感激
は終生忘れない。わがま
ちの美を一つ、支援しあ
って創造し始めた記念す
べき日のことである。
【加藤洪太郎・愛知県
中小企業研究財団副理事
長（名古屋第一法律事務
所・弁護士）】
（毎週水曜日に掲載）